

熊本県立八代高等学校 令和元年度(2019年度)学校評価表

1 学校教育目標
「平成31年度(2019年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とした本校の綱領である ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere. ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined. ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded. を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。

2 本年度の重点目標
ア グローバル人材育成プログラムの更なる充実(知の触発プログラム・アクションプログラム等) イ 新学習指導要領を踏まえた指導方法の実践と更なる改善(主体的・対話的で深い学び・ICT機器の活用) ウ 学校の魅力向上と発信の充実 エ 中高一貫6か年グランドデザインの完成

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルの向上	○実践的英語発信能力の育成を図ると同時に、各種自己研鑽活動・社会貢献活動に自発的に参加する態度を育成する。 ○各種ビジネスコンテスト等の全国大会入賞、社会貢献・自己研鑽活動等への参加者延べ1300名以上を目指す。	・即興型英語ディベート、イングリッシュキャンプの実施、外国語資格取得を推奨する。 ・各種講演会等(知の触発プログラム)を実施する。 ・グローバルアクション通信を発行し、自己研鑽活動等への参加奨励を行う。 ・活動の最新の様子についてHP等で常に公開する。	A	・即興型英語ディベート全国大会出場(64校中24位)、授業導入賞を受賞した。校内で実施したイングリッシュキャンプは参加者減となった。 ・学年やJRC等が主催する講演会を数多く実施することができた。自己研鑽活動等には約1200名(1月末現在)が参加した。 ・学校行事等の様子を随時HPで発信し、学校の魅力を伝えることができた。
	中高一貫教育の推進	◇中高一貫グランドデザイン再設計	○各教科等の指導方針の柱となる中高6か年のグランドデザインを作成する。 ○より質の高い中高一貫校としての教育課程を編成する。	・グローバル改革推進部等でグランドデザインを検討し、完成する。 ・本校中学出身者に対する高校での教育カリキュラムを検証し教育課程の見直しを行う。	B	・本校の教育目標やこれまで取り組んできた中高6か年の教育活動等を取り纏めたグランドデザインを作成し、HP等で発信することができた。 ・学習指導要領改訂を踏まえ、各教科で教育課程の見直し作業を開始した。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用学力の3要素を踏まえた授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニングの視点、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。	・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・職員間の公開授業週間を設定し授業改善につなげる。	B	・学校評価における、「言語活動の充実」に関する肯定的生徒は80.5%であった。 ・公開授業の取組が進まなかった。互いの授業を気軽に見合う機会設定が課題。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○学年ごとの目標学習時間を設定し、過半数の生徒が目標を達成している。	・各学年における適切な目標学習時間を再検討する。 ・年3回、期末考査前に宅学習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。	C	・学校評価において、目標とする家庭学習時間を十分またはある程度確保できている生徒は51.8%であった。生徒が主体的に学びに向かう仕掛けが必要。
キャリア教育(進路指導)	生徒の進路観、職業観の育成と志望大学選択の指導	◇Classiを活用した個人の成長記録をポートフォリオ形式で蓄積	○志望大学を決定させ、将来の学びの設計まで考えさせる。そのために在学中本校のプログラムに積極的に参加させ、自己の成長を意識させる。	・高1、高2のポートフォリオの電子化の指導。知の触発プログラムの一環として講演会やワークショップを他部署と協力して実施する。	B	・大学入試改革に対応して準備を進めた。生徒の進路意識を高める知の触発プログラム関連の企画を多く実施した。 ・Classiを活用したポートフォリオ関連の指導は大きくは進んでいないのが現状。
	入試改革及び新課程に対応する確かな学力を身に付けさせる指導	◇6年間の進路指導グランドデザインの完成	○求められる学力を育成するための6年間の指導方針の完成。 ○他の部署、学年、教科と連携し、生徒が志を高く目標を設定し堅持する態勢を作る。	・入試改革関連の情報を与え、進路を考えさせるための仕掛けを多様な形で提供する。 ・全職員が最新の入試動向を理解し、授業改革及び教科の指導力向上に努める仕掛けを用意する。	B	・職員研修を実施して大学入試関連の職員への情報提供ができた。 ・入試問題分析や進路冊子の作成等を通して職員の指導力向上へ動機付けをした。 ・県立中高一貫校3校の協働企画についても実施予定。

生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇規則を守ると同時に、自ら適切に判断し、行動しようとする態度の育成	○自己指導能力を身に付け、常に5分前行動、挨拶の励行、服装頭髪の整美ができる生徒の育成し、3学期までに整容指導対象者を各学年3人以下とする。	・全職員共通理解のもと、不公平感のない指導を行う。 ・年間8回整容指導実施。 ・朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導していく。	B	・全職員共通した基準で整容指導を実施できた。 ・登校指導を継続実施し、基本的な生活習慣の確立に貢献できた。 ・指導日のみならず普段の指導を充実させたい。
	生徒の危機管理能力の向上	◇交通マナー向上、交通事故の防止 ◇情報モラルに係る危機管理能力の向上	○今年度の交通事故件数を15件以下にする。 ○ネット上の特別指導事案をゼロにする。	・学期初めの登校指導、下校時刻の切り替わり時の下校指導を実施する。 ・1学期に情報教育講演会、交通講話を実施する。	B	・交通事故件数は昨年より若干減少傾向にある。 ・交差点等での交通ルール遵守が課題である。 ・SNS上の危機管理は継続して啓発していく。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。	・人権部落問題学習（1回）及び校内人権集会（2回）を実施するとともに、地域の子ども人権集会への参加を呼びかける。 ・地域主催の人権同和教育研究集会（原則全員）や現地研修会（新転任者及び希望者）に参加する。	A	・学年ごとに人権部落問題学習を中高連携して取り組んだ。統一応募用紙の精神や八代市の部落問題、また身近な人権問題について学び、人権意識の高揚を促した。一方、人権集会では差別の構造についての認識を深めた。 ・職員が八代市の人権集会や現地研修会に参加し、地域の人権部落問題について深く学び、自らの実践を振り返った。
	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障がいの有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を立て、それに基づき支援を進める。	A	・人権教育部会で特別支援体制を見直し、職員への共通理解を図ると共に、各学年部会において、週1回生徒の情報交換を行い、丁寧な対応を実施した。 ・特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を作成し、個々に応じた支援体制の充実を図った。 ・生徒理解の職員研修を開き、生徒一人一人の把握に努めた。
	命を大切にすることを育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をととし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を意識した学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・「教科等の授業における人権教育の推進」に関する校内研修を実施し、人権教育を通じて育てたい資質・能力に関し教科毎で協議し、多様性や自他を尊重する態度の育成を企図した授業の必要性を共有した。 ・生徒に対して授業や講話を通して、自分や周りの命を大切にすることを育む指導を行った。
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査によりいじめの早期発見に努める。	・学期に1回アンケート調査を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開き、実態把握と早期発見・対応を行うとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。	B	・教育相談週間や学期に1回行う心のアンケートをもとに、聞き取りや対応を早期に行い、その経過をいじめ防止対策委員会で話し合い、生徒のおかれた状況をきめ細く把握し、いじめの防止と対策に努めた。 ・教育相談や生徒理解研修を年2回実施し、生徒の情報を共有し、支援体制を再構築した。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニティー・スクールの活性化	◇地域とともにある学校づくり	○生徒の安全、安心を第一に考え防災避難訓練を年に3回以上実施する。 ○八代市と学校施設の避難所利用に関する覚書を締結する。	・1学期に消防署指導の防災避難訓練を実施し、2学期以降地震を想定したシェイクアウト訓練等を行う。 ・災害時における本校の役割を検討し地域との連携を図る。	A	・八代市と学校施設の避難所利用に関する覚書を締結した。 ・消防署指導による地震や火災発生時を想定した避難訓練やシェイクアウト訓練を実施することができた。また、2月の職員研修において災害時における引き渡し訓練、3月には津波を想定した校舎への避難訓練も実施予定である。

4 学校関係者評価

- 生徒の家庭学習時間の確保をさらに図るべきである。十分な時間が確保できていない要因として、スマートフォン、SNSの利用がある。家庭学習にもっと取り組むためにどうしたよいかについて、生徒自身に考えさせたり議論させてもいいのではないか。家庭での利用のルールを学校からさらに呼びかける必要がある。
- 本校のグローバル教育の取組は成果が出ていると思う。こうした活動に積極的に取り組む生徒は、エネルギーをもっているし、学力にも良い影響を与えているのではないか。これからも継続していてもらいたい。
- 本校生は社会的な活動をよくやっており、そうした活動を通じて礼儀正しさといった社会性も身に付けていっていると感じる。これからも文武両道の伝統を大切にしながら、生徒の成長のために幅広い活動に取り組ませてもらいたい。

5 総合評価

- 今年度評価はAが4つで昨年より1増、Cは1つで1減となり、残りはBであった。昨年より全体的に評価は上昇したといえるが、C評価だった「生徒の自発的な学習の促進」は昨年から引き続き本校の課題である。
- 本年度はグローバル人材育成のための各プログラムへの参加だけでなく、本県で開催された南部九州総体での高校生ボランティア、また、女子ハンドボール世界選手権大会の学校観戦等に参加し、生徒たちにグローバルな素養を養成することができた。
- 人権教育の在り方や近年の人権問題など、八代市の人権集会や職員研修を通して職員への啓発を図り、人権意識の重要性を再認識することができた。また特別支援教育の体制も見直し、きめ細かな対応を行った。
- 県立中高一貫校三校合同の学習会の実施等を通して、生徒たちの進学意識の高揚、教員の指導力向上を図った。

6 次年度への課題・改善方策

- 生徒の家庭学習の時間の確保について、各学年、各教科で引き続き、検討し、自発的学習習慣の確立を組織的に進めていく必要がある。
- 現行の様々な企画が生徒の現状に合っているかを常に検証して、変えていく必要があるものについては組織的に見直しを進めていく。
- 学習指導要領の改訂にともなう新たな教育課程の導入に向け、次年度は各部連携し、本校の学校目標実現に資する教育課程の編成の議論を進めていくことが主要な課題となる。
- さらに教職員の超過勤務の削減に向け、学校行事の精選を含めた業務の見直しも大きな課題である。